

平成 29 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校
 学校長 野 坂 尚 史

評 価 日	平成 30 年 2 月 6 日 (火)	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒会、寄宿舎とも自治活動が活発になっていることはすばらしい。社会生活においても自分の考えを正しく伝える方法をすることは必要である。生徒の考える力につながっている。 ○「働く心構え」は、家庭での「将来への見通し」も反映されていると思う。仕事への頑張る気持ちや力は入学後ではなく小さい頃から家庭でも育てていかなければならない。 ○学校の伝統ができつつあり、琴の浦に来て見違えるような積極性が出る生徒も多い。挨拶ができないことは開校時から課題に挙がっているが、就職することに誇りを持ち、そのために必要なこととして取り組んでほしい。 ○学校祭での生産品販売がなくなったのは残念。生徒の活動の啓発にもなると思うがどうか。 <p>2. 取組改善のための提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ○正社員以外の就職が多く、所得が十分でない上、障がい年金が受給できにくいとなると経済的に自立はできない。卒業後の生活の実態について、保護者への情報発信だけでなく、多方面から厳しい現状を伝えていく必要がある。 ○琴の浦の生徒が赤碕駅前などの掃除をよくしてくれており、地域の人との交流がある。以前と比べると最近はそのような活動が少ないようであるが、地域にどんどん出て行けば地域の人とも顔見知りになり、自然と挨拶もしやすくなる。地域の人から見える活動、感謝される取組を行い、地域の中の学校であってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動だけでなくチューター制度なども積極的に取り組み、継続したい。 ○今後も、卒業生保護者の声を伝える研修会を実施する。 ○「いつでもどこでも誰にでも」できる挨拶を目指し、今後も様々な取組を工夫したい。 ○学校祭では販売は難しいが、啓発となる取組を考えたい。 ○卒業生の具体的なデータを取り、実態把握、関係機関との情報共有・情報発信に取り組んでいきたい。 ○専門教科やボランティア部で地域での活動を進めてきている。今後さらに、取組内容や発信の仕方、生徒への意識付けなどについて工夫していきたい。 	